

# 1. 評価結果概要表

作成日

平成19年 7月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070000890		
法人名	特定非営利活動法人 いやしのさと		
事業所名	グループホーム いやしのさと		
所在地	福岡県京都郡みやこ町国分1396番地 〒824-0123 (電話) 0930-33-2200		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年6月20日	評価確定日	

## 【情報提供票より】(平成19年 5月26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人 常勤	4人 非常勤	8人 常勤換算 7人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り 2階建ての～ 2階部分		
------	-----------------------	--	--

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,300円程度	

### (4) 利用者の概要(5月26日現在)

	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2			0名
要介護3	1名	要介護4			3名
要介護5	3名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 87歳	最低	71歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	山田病院・新田原聖母病院・榊歯科
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地からやや離れた自然豊かな住宅地に立地するホームである。ホームのめざすものとして「命の尊厳」を掲げており、その人の持って生まれた人生にそっと寄りそうケアを実践されている。申し送りノートや日々の個人記録は、誰が見ても分かるように丁寧に記録され、情報が全ての職員に伝わる仕組みが確立している。カンファレンスでも意見が活発に出され、日常のケアや運営に反映される等、チームケアを重視し、職員間の連携が良く取れており、職員間でフォローしあいながら、質の向上に向けて取り組んでいる。開設から5年目を迎え、入居者のADLの低下に伴い長時間の外出や地域行事等への参加の難しさなど、ホームが持つ底力を試される時期にさしかかっているが、これまで積み上げてきた経験をもとに更なる取組みに期待する。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の外部評価結果について、運営推進会議にて報告を行い、勉強会時に説明と話し合いが行われている。評価を受けて、入居者のADL低下に伴うケアのあり方への勉強や成年後見制度等への取組みが積極的になるなど、具体的な改善が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 評価実施にあたり、勉強会の中で、外部評価内容について話し合いを行うなど、質の向上に向けた取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 老人会長、民生委員、行政担当職員、家族等の参加により2ヵ月毎の運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの現状についての報告や隣接する広域地域でのサービス提供について提案するなど、質の向上に向けての取組みや検討が行われている。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 情報誌を家族へ送付する際に、ホーム行事等のお知らせや、何かあればその都度の連絡などを通して家族の思いや意向の把握をだしていただくような工夫がある。入居年月が長く、長い付き合いを通して家族とのコミュニケーションがとれており、何時でも何でも話せる場となっている。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 地域の老人会の催しや運動会の見学、子供会との交流、月に1度のホーム1Fの多目的ホールを使っの公開講座の開催など、地域交流へ向けて積極的に取り組んでいる。また、近隣住民の方からのお野菜等のおすそわけをいただくなど、ささいな交流を通じて、近所付き合いが営まれている。

## 2 . 調 査 報 告 ( 詳 細 )

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	ホーム立ち上げ時から尊厳を基本とした理念を 掲げており、入居者の尊厳を支えるケアに携わる 中、地域との関係性を意識しながらかかわってい る。		地域密着型へ移行したことを受けて、地域密着 型サービスの意義の理解を深め、地域密着型に 視点を置いた理念の再構築に取り組んでほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	6ヵ月単位で「自分の目標と介護の目標」を立て、 毎月の自己チェックと事務長からのコメントにより、 理念のより深い理解と実践に向けた取り組みがあ る。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の老人会での催しや運動会の見学、子供会 との交流、月に1度のホーム1Fの多目的ホールを 使っての公開講座の開催、近隣住民の方からのお 野菜等のおすそわけなど、入居者と地域の人々 との交流を図るための取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	月に1度の勉強会の中で、外部評価内容について 話し合うなどの取り組みがある。前回の評価を受け て、入居者のADL低下に伴うケアのあり方への勉 強や成年後見制度等への取り組みが積極的になる など、具体的な改善が見られる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	老人会長、民生委員、行政担当職員、家族等の参加により2ヵ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に外部評価結果の報告や現状についての報告や、広域地域でのサービス提供について提案するなど、質の向上に向けての取り組みや検討が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や地域ケア会議に行政担当職員の参加があり、連携が図られている。地域密着型へ移行した中で、生活圏を考慮した中で隣接する行政区の職員との相談等のかかわりも見られる。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修に参加したり、月に1度の勉強会で説明を行うなど、職員の制度に対する理解を深めるように努めている。また、制度に関する資料を全家族へ配布するなど、情報提供が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全国NPO法人発行の情報誌を家族へ送付する際に、ホーム行事等のホームからの連絡事項の報告がある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情ノートを作成している。その都度の連絡や長い付き合いを通して家族とのコミュニケーションがとれており、訪問時にプライベートな悩みを話して帰られる家族もあり、何時でも何でも話せる場となっている。		長期化した家族との関係の中で、新たに家族の意見等を取り入れる方策(利用者満足度調査や無記名方式でのアンケート実施など)に取り組まれることを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代は少なく、交代する職員と新規採用期間をだぶらせ、見守りや話し相手などのかかわりを通して信頼関係を作るなど、引継ぎや馴染みの関係性を維持する取組みがある。		
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して、年齢や性別等による制限は何ら行われていない。花が好きな職員に花を生けてもらう、創作が得意な職員には折り紙創作を担当してもらうなど、職員の趣味や特技に配慮した対応がある。また、不得意な事は他の職員が代わるなど、職員間でフォローしあいながら、チームワーク良く働きやすい雰囲気作りへ努めている。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月ホームで行われる公開講座に職員も参加し、公開講座を通して、職員の人権教育や啓発への取組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を提示して研修参加を募ったり、職員の経験や能力を加味した上で外部研修参加を促すなど、外部研修への参加機会がある。月に1度の勉強会で報告を行い知識の共有に努めている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会での2ヵ月に1度の情報交換、地域ケア会議においての事例検討などを通して、他の事業所の意見や経験を活かす取組みがある。		グループホーム連絡協議会は発足されて間が無く、これを契機に、職員レベルでの見学や相互実習、情報交換等の機会を持ち、質の向上に向けて取組みを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を通じて、他の入居者の方との相性や関係作りなど、馴染みの関係作りへの取組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の思いや個々の入居者の生きざまなどを知り、日々のケアの中で分かち合い、精神的な部分で常に学び支えあう関係づくりに配慮している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での声かけによる把握、入居者の様子を良く観察した上で汲み取るように努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者との日々のかかわりを通して入居者の希望の把握に努め、家族訪問時の声かけや家族との会話を通じて家族の思いや意向の把握に努めている。毎日のモニタリングや月1度のカンファレンス時に他の職員の気づきを聞き、介護計画へ反映させるなどの取組みがある。		




外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎のADLチェックと介護計画の再作成が行われている。また、毎月のカンファレンスにて入居者の現状に即した協議が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の方の認知症の相談に対応したり、在宅酸素を使用しながらホームでの生活の継続を支援するなど柔軟な対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム協力医があり、緊急時はいつでも対応可能である。入居者のかかりつけ医への受診は、基本的には家族対応であるが、必要に応じてホーム対応にて支援するなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況に応じて、本人・家族・主治医を交えてその都度協議し、方針を共有している。看取り介護についての同意書を全入居者・家族より得ており、状態変化に伴いホームでのターミナルを希望する家族に対して看取りに関する指針の説明を行うなどの対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の前職に配慮した声かけを行ったり、職員 間での見守りの声かけ時の表現方法を工夫する など、入居者のプライバシーに配慮した言葉かけが 見られるも、入居期間が長くなっている中でやや馴 れ合いとなっている可能性が考えられる。		入居期間が長くなっている中、日々のかかわりで 見落としがちになりやすいプライバシーを損ねな い対応について勉強会などで徹底を図り、直接的 に個人情報等の記録類が目につれないような工 夫を期待する。
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を始めるタイミング、食事にかかる時間、日中 の過ごし方など、入居者一人ひとりの生活リズムに 配慮しての支援がある。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事介助の必要な入居者の傍に職員が付き添 い、ゆっくりと声かけをしながら入居者の食べる ペースに合わせての対応をするなど食事が楽しみ となるような工夫がある。下膳や食器洗いなど、入 居者の出来る範囲での取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は隔日の入浴であるが、入居者の希望によ り毎日の入浴が可能である。入居者毎にお湯を入 れ替え、好みの湯温や入浴剤の使用など、入浴を楽 しめるように努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	野菜をそろえたり、野菜を洗ったり、豆の筋とり、野 菜の皮むき、下膳、食器洗い、洗濯物を干す、たたむ など、入居者の得意なことや出来る事を把握したう えでの支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の中での散歩やホーム前庭にての日光浴、 定期的な外出計画に基づいた外出など、入居者の 状況や天候等に合わせたの支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホーム玄関出入り口は開錠している。入居者の 様子を良く観察した上での職員間の声かけと見守 りが行われており、外出傾向を察知したら職員は後 からついて出ていくなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練への取り組みがある。職 員が救命救急の講習を受け、必要な技術を他の職 員へ報告するなど、誘導方法の習得に努めてい る。近隣住民へ事務長より協力依頼をするなどの 働きかけがある。		運営推進会議時のお願いや避難訓練時の地域 住民の参加など、いざという時に地域の協力が得 られるよう更なる働きかけを行ってほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	入居者の希望を取り入れてのメニュー作成であ る。ボランティアで、栄養士の方に3ヵ月分のメ ニューをチェックしてもらいアドバイスを受けてい る。また、毎日、食事摂取量と水分摂取量のチェック を行い把握している。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム前庭には、樹木が生い茂り、花から実を結 ぶ過程を通して季節の変化を味わうことができる。 ホーム内は自然の風が流れ、入居者にあわせた居 室の温度管理が行われており、リビングや廊下には 季節の花や季節を感じる飾りつけなど居心地の よい環境作りへの工夫がある。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのもをを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ぬいぐるみ、写真、生花、在職中に使用し ていた物品などの、馴染みの物が持ち込まれてお り、安心して過ごせる居室となっている。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号